

いくぶんかん

# 郁文館の正門

土浦市文京町3-8

土浦市立土浦第一中学校の東側、国道354号線にある歩道橋の脇にあるのが、土浦藩の藩校であった「郁文館」の正門です。

郁文館は、寛政11年（1799）に土浦藩第7代藩主、土屋英直



により文武両道修練の場として土浦城内に設置されました。論語の「郁郁乎として文なるかな」（かぐわしく華やかなさま）から郁文館と名付けられました。天保10年（1839）、10代藩主、土屋寅直によって現在地に移されました。当時の郁文館は学問を教える文館と武術を教える武館に分かれていました。学者として有名な藤森弘庵や剣客の島田虎之助、後に尊王派の志士となった大久保要などが指導にあたっていました。

明治4年（1871）の廃藩置県により郁文館は廃校となりましたが、施設はそのまま残され、「新治師範学校」や「土浦高等小学校」などの校舎として使われました。昭和10年

（1935）に主要な建物は取り壊され、この正門だけが唯一の遺構となりました。現在の正門は天保10年（1839）当時のもので、寄棟、棧瓦葺、長屋門形式で、当時の藩校建築として貴重なことから、昭和46年（1971）に土浦市指定文化財（建造物）に指定されました。昭和62年（1987）、道路拡張のため解体修理されましたが、地盤沈下対策が施され、調査の結果、木材表面に酸化第二鉄（ベンガラ）が検出されたため、赤門に復元されました。

茨城教育 第八六二号

令和二年二月二十日発行

編集責任者 樋口 浩史

発行人 樋口 浩史

発行所 一貫塾 茨城県教育会

水戸市見和一 三五六一二

電話 〇二九 三二 二七四七

印刷所 有限会社山田軽印刷所